

1 単元名 ことばのパレット ～絵のない絵本をつくろう～

2 授業構成

(1) 教師と教材

新学習指導要領では、「言語活動の充実」が位置づけられ、言語能力の育成を重視し各教科等において言語活動を充実することとしている。このような流れになったことの背景には児童の読解力の低下やコミュニケーション能力の低下がある。近年児童の様子を見ていて、そのことを強く感じることがある。自分の感情を「うれしかった」「悲しかった」と一言でしか表現できなかったり、ちょっとしたことばの行き違いで子ども同士がけんかになるという場面が見られたりする。言語能力の低下が、人間関係をも低下させる一因となっているように感じる。つまり、言語は論理的思考だけではなく、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心をはぐくむ上でも、言語能力を高めることが大切なのである。そのために、国語科の学習の中で、語彙を増やして豊かに表現したり、言語を介したコミュニケーションをしたりできる能力の獲得をめざして、本単元を設定した。

本単元では、児童が想像を巡らし、楽しく表現しようとする態度を育てられるように、児童がイメージを持ちやすい絵を使ってお話作りをする場を設定した。原田泰治や安野光雅の風景画は、想像力・空想力を使って書く力を高めたり、楽しみながら話す力を育てたりするのにぴったりの素材である。想像したことを表現して伝えるという目的意識と、友達に対して表現するという相手意識を持たせ、学ぶ意欲の高まりをねらった。いろいろな絵をことばで説明する活動をしていくが、最終的には、安野光雅の「旅の絵本」を子どもたちのことばで本にしていきたい。この旅の絵本は、克明繊細な筆づかいで外国の町並みや自然の風景が描かれており、文章は出てこない。しかし、1枚1枚の絵にストーリーや仕掛けがあり、それは見る者によっていろいろな受け取り方が出来るようになっている。子どもたちが絵の中からそれを見つけたり、ことばで表現したりするのに適した教材である。また、今までの国語というと文字によるテキストを使っての読解だったが、このような絵からことばを読み取ることもこれからの国語では必要になると考える。

本単元は、新学習指導要領の次の内容に位置づけられている。

伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項

イ 言葉の特徴やきまりに関する事項

(ア) 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

(オ) 表現したり理解したりするために必要な語句を増し、また、語句には性質や役割の上で類別があることを理解すること。

(カ) 表現したり理解したりするために必要な文字や語句について、辞書を利用して調べる方法を理解し、調べる習慣を付けること。

本時の学習では、自分が選んだ1枚の絵を、友達や参観されている方にことばで伝えるという活動を中心に授業を構成する。1枚の絵からストーリーを想像し、たくさんのことばを見つけたり、表現の工夫をしたりさせたい。また、1枚の絵を見ても、受け取る印象やことばに対するイメージが人それぞれ違うことにも気付かせたい。

(2) 子どもと教師

本校国語科では、以前より、国語科のねらいを「ことばを使って思考、想像し、ことばによって他者とコミュニケーションすることを通して、世界や他者、自己を認識し、表現する力を育てる」としている。児童の意欲を喚起する学習材の工夫・開発を行い、児童の「ことば」に対する感性を磨き、深く追求する力を育てていくことに取り組んでいる。

自分の考えや思い、想像したことを「ことば」を通して伝えるためには、相手によりよく伝えるた

めに適したことばを使いこなす感性と表現力が必要である。それらを豊かに行うためには、語彙指導の役割は大きいと考える。「児童が確かに思考を高める学び合い」を実現するためには、まずは、しっかりと「基礎・基本に支えられた知識や理解」を身につけさせることが大切である。国語科の授業の中で、「基礎・基本」を学んでいく際に、その学びをより豊かにし、意味を深め、広げ、児童が充実感や満足感を得られるような単元を設定すること、また、それが単発の学習にならないことが必要である。自作単元に取り組む良さは、子どもに付けたい力が明確になることと、教師が作ったり行ったりしたものを提示することで子どもの意欲も高まり、活動も進めやすくなることである。

3年生のこの時期は、低学年の頃に比べ生活空間が広がると共に、日常語彙が広がっていく時期である。生活体験に基づいた「身近な生活の中の言語の世界」から、「概念的・抽象的な言語を含む世界」へ移行する中学年の頃に継続的語彙指導を行うことにより、高学年でさらにことばが広がっていくことを期待している。そこで、今年度は通年を通して「ことばのパレット」という学習で、語彙指導を国語の学習の中で行い、まず、語彙を豊かにしことばを広げていくことを行う。

本学級の児童は、まだ年度が始まって間がないためか、中学年にしてはことばが幼い印象がある。また、おとなしく自己主張が弱いため、なかなか自分の思いが言えない児童も多い。また、どのように言えばよいのかどう表現すればよいかわからないという、語彙力の弱さを感じる。そこで、楽しく意欲的にことばの学習に取り組むことにより、語彙力を高め、ことばで伝えようとする力をつけさせたいと考えた。ことばの学習に積極的に取り組ませるために、ことば遊びなどを取り入れ、まずはことばの学習は楽しいという気持ちを持たせるようにした。次に、ことばの意味や使い方を調べる方法を身につけるため、5月に国語辞典の使い方についての学習をした。国語科の学習だけでなく、他教科・領域の学習や、朝自習などでも辞典を使用する機会を多く取るようにしたところ、最近では、辞典を単に調べるだけでなく、読書する姿を多く見かけるようになってきた。自分の辞典を読んだり、違う辞典を持っている友だちと見せ合って書いてあることを比べたりすることにより、辞典に親しんでいる。自分の知らなかったことばに出合う喜びを感じているが、辞書を引く力は個人差が大きい。また、引いたことばだけで満足してしまい、そのことばを使うところまで行かない児童もいる。言語能力は、単にことばを知ったことで身に付くものではない。例えば国語で形容詞を勉強したとしても、活用する場面がなければ生きて役立つ学びにはならない。

本単元の学習においては、言葉遊びや言語ゲームも取り入れながらことばに対する興味を持たせ、楽しさを味わわせたい。さらに、友達と伝え合ったり、家族に伝えたりすることの喜びや楽しさを感じさせたい。「話すこと・聞くこと」に関しては、普段の学習の中だけでなく、いろいろな場面を通して指導しているが、児童は話したい気持ちは強い反面、友達や教師の話を聞いていなかったり、早合点してしまい内容を理解していなかったりということも多い。また、意見や感想を交流したり、質問したりというような「コミュニケーション能力」については、まだまだこれから指導が必要である。

このような実態をふまえ、本時の学習では、1枚の絵を見て友達と一緒にお話づくりをしたり、絵の中からたくさんのことばを見つけ出したり詳しくしていったりすることにより、楽しんで話をさせたい。また、友だちの話をしっかりと聞き、お互いの工夫やおもしろいところに気づいたりするようにしたい。そのため、学級全体での学習や少人数での学習も取り入れ、お話を作る意欲を高めたり友達のお話を参考にしたり、スムーズに話を作れるようにする。また、表現したものを絵本などにまとめることにより、他者を意識した表現の仕方を学習していく。できた作品に質を求めるのではなく、友達とお話をつなげると楽しいという気持ちの高まりを大切にしたい。また、語彙力を高め、文章表現力を養うだけでなく、アイデアや意見、感想を出し合うという児童同士の「かかわり合い」を重視し、人のお話を関心をもって聞いたり、語や文の続き方に注意して友達と話を続けたりできるようにするとともに、楽しんで表現しようとする態度を育てたい。

(3) 子どもと教材

国語科の授業において、語彙指導の必要性は感じながらも、どの語彙をどのように教えるのか等についての基準や体系が十分に確立されておらず、計画性に欠け、単発での指導になりがちになっていた。一年を通して系統的・継続的に指導していくことが、表現力の向上につながり、向上した実感をもたせることが、豊かに表現しようとする子どもの意欲につながると考える。また、国語科の学習だけでなく、日常生活の中で、語彙に関する指導を繰り返すことによって、子どものことばの質の向上を図ることも必要である。そのためには、児童の言語状況を正しく捉え、指導に生かせるような工夫をする必要がある。また、その中で児童自身が自分の言語状況を意識したり、ことばの大切さを実感したりさせていきたい。語彙指導を一つの基準として、学習を体系的にデザインし、かつそこでの活

動を充実させることができれば、言語活動が単に楽しい学習に終わるのではなく、児童自身にことばの力の大切さを実感し、学習に没入できるのでは考え、この単元を設定した。

児童にとって、絵を見て想像したことを書くことということの良さは、大きく分けて三つある。まず一つ目は、絵を見ることが児童にとって大変楽しいものであるので、それに関わる学習に対して関心・意欲を持ち続けられること。二つ目は、絵のストーリーを想像して書くということは、「こう読み取らなくてはいけない」「こう書かなくてはいけない」という規制がなく、児童が思ったことを思いのまま自由に想像し、書けるということ。三つ目としては、絵は色や人やものの名前、様子や動きなどの情報にあふれており、ことばに対する感性を磨き、生きたことばの働きを育てていくために感動をもって語彙の世界にふれ、響きやリズム、雰囲気を楽しむことができることである。

本時の学習では、自分が選んだ絵をことばで友達に伝えるという活動を中心に授業を構成する。その際、自分が選んだ絵をどのように紹介すれば、その絵の良さが聞いている人に伝わるのか、また、実際にどんな絵なのか見てみたいと思わせることができるのかという視点で活動を考え、授業を構成していく。そこで、本時の課題を次のように設定した。

◎ 自分の好きな絵を、友だちも好きになるようにことばで伝えてみよう。

上記の問題に対して児童は次のような活動を行うものと予想される。

A 自分の選んだ絵を、誰にでも自分なりのことばで詳しく紹介しようとしている。

B 自分の選んだ絵を、誰にでも自分なりのことばで紹介しようとしている。

C 自分の選んだ絵を、友達に紹介しようとしている。

本時の児童の活動に対する支援としては、次のようである。Aの様相に対する支援としては、相手の人がイメージしやすくなるような表現の工夫をしてみるように促したい。Bの様相に対する支援としては、色の表現や形容詞をつかって説明できるようにしたい。Cの様相に対する支援としては、見つけたことを出来るだけたくさん話せるように意欲を持って取り組ませたい。

3 単元の目標

- ・お話作りに関心を持ち、楽しんで表現しようとする。
- ・絵を基に、想像したり、感想を話し合ったりして、それぞれの感じ方に違いがあることやお互いのお話の良さに気付くことができる。
- ・色や音、様子を表すことばやたとえを使うことにより、絵が目浮かぶように表現することができる。

4 学習計画（全7時間）

第1次 絵だけの絵本からことばだけの本を作ることを知り、学習計画を立てる。（1時間）

第2次 自分の好きな絵を1枚選び、選んだ絵をどのように紹介するか考え、紹介する準備をする。
（1時間）

友達の発表を聞いたり、友達に絵を紹介したりする。（1時間）・・・本時

第3次 小グループに分かれて、旅の本を基に「絵のない絵本」を作る。（3時間）

第4次 絵本の発表会を開き、お互いの絵本を見合う。（1時間）

5 本時について

（1）本時目標

- 友達同士で絵を紹介したり、友達の紹介の良さを見つけたりすることができる。
- 聞き手にわかりやすいように、はっきりと大きな声で話している。

（2）期待される児童の様相

- A 自分の選んだ絵を、誰にでも自分なりのことばで詳しく紹介しようとしている。
- B 自分の選んだ絵を、誰にでも自分なりのことばで紹介しようとしている。
- C 自分の選んだ絵を、友達に紹介しようとしている。

(3) 準備

教師・・・掲示用の絵「七夕」(原田泰治)，作文例

児童・・・ワークシート，自分の選んだ絵(原田泰治)

(4) 本時の展開 (○教師の意図 ◇全体への支援 ◆個への支援)

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 意 図
1 今日の学習課題を明確にする。	1 ○本時の活動を確認し，各自の学習のめあてを持たせる。
◎ 自分の好きな絵を，友だちも好きになるようにことばで伝えてみよう。	
2 教師が選んだの風景画を見て，みんなでストーリーを考えたり，ことばを見つけたりする。 ・ 隣同士で話す。 ・ みんなで話す。	2 ○最初は隣同士の二人組で話すことにより，何をするのか理解させたい。 ◇細かい所も見えるように，絵の入ったコピーを各自が持てるようにする。 ◆教師の作文例を掲示し，声に出して読ませることにより，内容をしっかり確認するように指示する。 ◇みんなで話し合うことで，自分の作文も工夫してみよう，付け加えて書いてみようというという意欲を持たせたい。
3 自分の選んだ絵について，友達や参観者を相手に紹介し，一言カードによかったところを書いてもらう。 〈どのような点に着目するか〉 ・ 風景 ・ 場面 ・ 人物やその関係 ・ 動物や植物 ・ ものやその状態や質感 ・ 様子を表すことば ・ 色 ・ 会話 ・ 音 ・ 比喩	3 ○どのような点に着目して説明すればよいのを，理解させたい。 ◇最初に書かせることにより，紹介しやすくする。 ○早くできた児童には，書いた文章を見直し，さらに詳しくすることばがないか，確認するように見直しをさせたい。 ◇色を自分なりのことばで説明したり，様子を表すことばを使って説明すれば良いことを知らせる。 ◆自分なりの工夫ができた児童の文章を紹介することにより，書けずに悩んでいる児童の助けとしたい。 ○お礼の一言カードにお礼や励ましの一言を書いてもらうことにより，他のグループの友達や参観者の方々に紹介したいという意欲を高める。 ◇お互いに正確に聞いたり話したりすることが，相手のことを大切にしていることだと気づかせたい。 ◆なかなか自分から話しかけることのできない児童には，教師と一緒に付き添って紹介する。
4 今日の学習をふり返る。	4 ○本時の学習をふり返り，次時のめあてを持たせ，意欲的な学習へとつなげたい。

ことばのパレット

ことばのパレット

たとえば、「あお」ということばを聞いたとき、どのような色を思い浮かべるだろう。色鉛筆の色、真っ青な空の色、瑠璃の色、紺碧の海の色、青の洞窟神秘的な色、北極の輝く氷の断面の色、人それぞれ心に浮かぶ色は異なる。一つのことばは、辞書的な意味だけでなく、送る側受け取る側のそれぞれの立場やその時の状況、感情によって変化する。

また、青は「はっきりしているから好き」「鮮やかできれい」「冷たい感じがするから苦手」と、受け取る側の印象が感情に現れることもある。

さらに、青に黄色を混ぜれば緑に、赤を混ぜれば紫にというように、混ぜることによって変わる色のように、ことばとことばの出会いによって異なったことばが生まれることがある。

このように、ことばは色々な側面をもっている。ことばの色々な側面や働きを学ぶ学習を、「ことばのパレット」と名付け、年間を通して国語科学習の中で体系的に学習することにした。

年間計画

月	ことばのパレット (教科書) 教科書単元・教材
4月	ことば遊び〈ことば集め、だじゃれ、回文、早口ことば 等〉(通年を通して) 「あ」の一言で、いろいろな気持ちを表す。
5月	国語辞典の使い方を知ろう(教科書3時間) 「さようなら」を、いろいろな場面で。
6月	形のかわる言葉に気をつけよう(教科書3時間) 「～しいのつくことば」(1時間) 「わたしはだあれゲーム」(メモをとる)
7月	慣用句を使ってみよう(教科書4時間) 絵のない絵本をつくろう(7時間) 身ぶりのことば「口でする・手でする・足ですることば」
9月	詩を読もう(教科書2時間) ことばつなぎ「リレー詩をつくろう」
10月	お話を作ろう(教科書8時間) 「こそあど言葉」を使い分けよう(教科書3時間)
11月	オノマトペってなあに
12月	様子をくわしく表そう(教科書3時間) ことばのたし算
1月	俳句に親しもう(教科書5時間)
2月	漢字の表す意味を考えよう(教科書3時間)
3月	「わたしの作品集」を作ろう(教科書7時間)